

戦後教育資料

1-19

I
19

日米ソ教育ノ比較

文書課調査掛

昭和二一、六、七

1-

肉口ク

I-19

目次

ハシガキ	1
一、各國教育ノ概観	1
(一) アメリカノ教育	1
(二) ソノ邦ノ教育	1
(三) 本邦ノ教育ノ比較	1
二、各國行政組織	1
1、行政組織	1
2、行政組織	1
3、行政組織	1
4、行政組織	1
5、行政組織	1
6、行政組織	1
7、行政組織	1
8、行政組織	1
9、行政組織	1
10、行政組織	1
11、行政組織	1
12、行政組織	1
附録	1
表一、日米ソノ教育比較表	1
表二、日米ソノ教育比較表	1
表三、日米ソノ教育比較表	1
表四、日米ソノ教育比較表	1
表五、日米ソノ教育比較表	1
表六、日米ソノ教育比較表	1
表七、日米ソノ教育比較表	1
表八、日米ソノ教育比較表	1
表九、日米ソノ教育比較表	1
表十、日米ソノ教育比較表	1
表十一、日米ソノ教育比較表	1
表十二、日米ソノ教育比較表	1

(執筆者 増田事務官)

ハシガキ

1 新生日本ノ教育再建トイフ大事業ヲ行フニ當リ、我々ニ大キト示唆ヲ與ヘルノハ聯合各國ノ教育ノ實情デアアル。就中アメリカトソレハ種々トル意味ニオイテ特ニ我々が最大ノ關心ヲ以テ考究スル必要ガアルト考ヘラレル。吾人がココニ米ソ兩國ノ教育ニ際シ、特ニソレヲ本邦教育トノ比較ニオイテ、若干ノ考察ヲ請ミタ趣旨モ正ニ石ノ鏡點ニ存スルモノデアアル。アメリカ及ビソ聯ノ教育ニツイテハ他ニ詳細ト記述モ既ニ多クアリ、又今ソレヲ一々詳説シテキル暇ハトイ。且ツ本報デハ日米ソ聯三國ノ比較的考察ヲ主トシタイト考ヘルノデ、兩國ノ教育情況ソノモノニツイテハ極メテ簡單ニホンノ概略ヲ敘スルニトドメテオキタイ。ソコデ兩國ト本邦トノ比較デアアルガ、コノ考察ニ當ツテハ、何分教育制度ニセヨ又内容ニセヨ各國間ニ随分多キト差異ノアル面ガ存スルノデ、カドリノ困難ヲ感ゼザルヲ得トカツタ。從ツテココニ述ベテキル所ヤ附録ノ比較圖表ハソノ記述ニ種々無理ガアリ、又必ズシモ的確デトイ箇所モアルカト思フガ、ソレハ諒承サレタイノデアアル。コトニソレハソ聯ニ關スル敘述ニ於テ資料ノ不十分トイフ理由カラ然リデアツタコトハ筆者自身ノ誤メル所デアアル。今後更ニ一層正確且ツ精細ト資料ノ入手ヲ得テ本稿ヲ補正シタイト考ヘテキル。

一、各國教育ノ概観

(一) アメリカノ教育

1、行政組織

アメリカ合衆國ニハ教育ハ憲法ニヨツテ州ノ専務ト見做サレテキル。ソコデ教育ノ實施ニ關スル事權ハ專ラ州政府ノ手ニ委ネラレ、從ツテ州ニヨツテ様々ト教育制度ガ行ハレ、全國的ニ統一サレタ制度ハ存シトイ。

2

中央政府ニハ内務省 Department of the Interior、一層トシテ Bureau of Education ガアルガ、ソノ任務ハ(1)各州及ビ縣ニオケル教育事情ニ關スル資料ノ蒐集ト、(2)學校組織・管理及ビ教授法等ニ關スル指導ニマリ、カカル性格上研究・調査ニ關スル部門ガ特ニ重視サレテキル。專官ヲ Commissioner of Education ト稱スル。

次ニ各州ノ州政府ニハ夫々州教育省 State Department of Education ガアリ、ソノ長ヲ教育局長 State Superintendent of Education or Commissioner of Public Instruction ト稱シ多クハ公選ニヨツテ選出サレル。教育局長外ニ州教育會議 State Board of Education ガアリ、ソノ議員ハ大抵ノ州デハ皆議員ニ關連者若クハ一般市民ノ中カラ任命

若クハ公選サレル。コノ教育會議ト教育局長トガ互ニ任務ヲ分擔シツツ州ノ教育ヲ運営シテキル。即チ前者ノ任務ハ(一)州ノ教育政策ヲ決定シ(二)必要ナル規定ヲ制定シ(三)豫算ヲ審議スルコトデアリ、後者ノソレハ(一)州ノ教育會議ノ決定シタ教育政策ノ實施及ビ(二)州内教育ノ指導監督ニアル。

更ニ各州ハソノ教育事務ノ一部ヲ州内ノ地方團體ニ委任シテキル。ソコデ地方教育行政ノ單位タル縣 district, 町 town, 村 township, 郡 county ニハ夫々獨自ノ行政機關ガ設ケラレテキル。何レモ此等委員若クハ教育會議 Board of Education, Board of Education ガ設ケラレ、又教育 Superintendent ガ設ケラレテキル。前者ハ地方教育事務ノ管理若クハ議決機關デアリ、後者ハ執行機關デアル。如上ノ外、市 city ハ多ク獨立ノ教育行政區域トシテ縣カラ獨立シテオリ、市教育會議ヲ設ケ、又市警察ヲ管イテキル。

2、學校教育

學校教育ハ就學前教育、初等教育及ビ補習教育、中等教育、高級教育及ビ師範教育ノ五ニ大別スルコトガ出來ル。

(イ) 就學前教育ノ機關ニハ保育學校 nursery school 及ビ幼稚園 kindergarten ガアル

前者ハ滿十八ヶ月カラ幼稚園入學迄、後者ハ六才迄ノ幼児ヲ收容スル。

(b) 初等教育ノ機關ハ小學校 elementary school ナル。ソノ修業年限ハ六年乃至八年、州ニヨツテ違フガ、年限バカリナトク、毎週日ヤ夜間時數モ州ニヨリ又地方ニヨツテ一様デトキ。義務教育年限モ從ツテ異々デアルガ、多數ノ州ニマツテハ六才カラ滿十四才迄トナツテキル。

補修教育ノ機關ハ補習學校 continuation school デアル。修業年限ハ二年乃至四年、生徒ノ年級ハ一様デトイガ、修業年限了ラキトシテ、又ニ成人ノ希望者モ入學セシメル。ソノ教育ハ專ラ學藝的ト補習デコレヲ義務教育トシテキル情モアル。

(c) 中等教育ノ機關ハハイスクール (high school) デアル。コレニ二ツノ型ガアル。一ハ小學校八ヶ年ノ上ニ續ク四年制ノモノデ、舊ハ小學校六ヶ年ノ上ニ續ク六年制ノモノデアルガト呼ブ。後者ヲカク稱スルノハソノ別稱ガジュニア。ハイ三年、ジュニア・ハイデハ多彩トル學科日ヲ通シテノ一般的教育テキルカラデアル。六一三一三制ニ對シテハハイ三年、ジュニア・ハイデハ多彩トル學科日ヲ通シテノ一般的教育ニ一次大成以後急遽ニ普及シテキル。ジュニア・ハイデハ多彩トル學科日ヲ通シテノ一般的教育

者ガ行ハレ、ジュニア・ハイデハ各種ノ課程ニ分ツテノ分化的教育ガ授ケラレル。即ち後者ニハカレッジ豫科、一般科 general cultural course、農・工・商等ニ關スル科等ノ各種ノ課程ガ設ケラレテキル。(近時ジュニア・ハイデ更ニ二年延長シテ社會的・公民的活動ヲ理解セシメヤウトスル傾向ガアル)

(d) 高等教育機關ニハカレッジ (college) 大學 (university) 及び高等專門部 (professional school) ガアル。カレッジハ四年ノ課程ヲ持ツモノノ稱デ、大學ハカレッジノ上ニ高等專門部ヲ持ツモノヲ云フト云フノガ普通行ハレテキル區別デアルガ、カレッジ、大學及び高等專門部ノ名稱ノ使用法ハ嚴密ニキマツテハキトイ。カレッジ四年ノ下級二年ヲ以テジュニア・カレッジ (junior college) ヲ組織スルコトガ歐洲大戰前ニ始メラレタガ、大戰後益々盛トトツタ。コレハ蓋シ優良ト中ニ於テニ附設スルカ、又ハ入學志願者ノ多イ地方ニ特設スル高等教育機關トシテ適切トモノダカラデアルト思ハレル。カレッジハ各種ノ專門課程 (法・醫・農・工等) ニ分化セラレテキル。カレッジノ上ニ研究院 (post-graduate course) ガ置カレ、コノ一年專門研究ニ從事スルト M.A. 又ハ M.S. 類ニ二年ヲ經ルト Dr. of Philosophy 又ハ Dr. of Science ノ稱ヲ授ケラレル。

尙高等專門部ハ四年或ハソレ以上ノモノデ、各様ノ專門教育ヲ行フ。

(5) 師範教育ノ機關ニハ、師範學校 (normal school) 及ビ師範大學 (teachers college) ガアル。修業年限ハ前者ハハイスクール卒業後二年乃至三年、後者ハ四年デアル。元來前者ハ小學校教員、後者ハハイスクール教員ノ養成ヲ目的トシテ始メラレタノデアアルガ、兩者共現在ハ專門的ニ分化サラレタ。師範學校ヲ設ケ、幼稚園、小學校、ハイスクールノ何レノ教員ヲモ養成シテキル。

如上ノ外心身の缺陷者即チ盲聾者、性行不良者、精神薄弱者等ノ爲ノ特殊教育機關ガアル。

3、社會教育

社會教育ハソノ性質上確然タル系統ヲトシテハホトイガ、大體成人ヲ對象トスルモノト青少年ヲ對象トスルモノニ大別サレ、前者トシテハ大學擴張、學者教育、職業教育、圖書館及博物館等ヲ、又後者トシテハ種々タル教育施設ヲ舉ゲルコトガ出來ル。

大學擴張 (university extension) ハ公私各大學ニヨリ、(1) 學校ニ在學ストイ者ニ修養ト研究トノ機會ヲ與ヘ(2) 調査・研究ノ結果傳ラレタ知識ヲ一般ニ普及サセ月ツ(3) 研究機關トシテ社會奉仕ヲスルコトヲ主目標トシテ行ハレテ居リ、擴張級授業 (extension class) ニヨリ略統制セラレテ居ル。

ト通信教育 (correspondence) トラ主トル手段トスル。

學者教育ハ學會聯合・產業聯合等ノ手ニヨリ經營セラレソノ形ハ様々デアル。併シアメリカ勞務者教育局 (現在 A. F. L. ノ教育機關) 勞務者學校聯盟、勞務者教育聯合ノ如キ団体ニヨリ略統制セラレテ居ル。

職業教育ハ一層多クテ、公立夜間學校、補習學校、共同學校 (cooperation school) 合資經營工場學校 (corporation school) 宗教團體經營學校等ヲ進ジテ行ハレル。

圖書館及ビ博物館ハ夫々單ニ圖書ヲ覽覽サセタリ或ラ展覧サセタリスルダケデトク、何レモ積極的ト教育機關トシテノ機能ヲ發揮シテキル。即チ讀書ノ指導或ハ知識ノ啓發普及ノタメノ手段・施設ニ非常ト努力ヲ拂ツテキルノデアアル。

7 青少年教育ノ形態・様式ハ極メテ多彩デアル。即チソノ爲ニハ少年少女クラブ・ワーク (boys' and girls' club work) 別名西Hクラブ、少年遊撃兵 (boy ranger) 森林生活聯盟 (the woodcraft league of America) 少年赤十字 (the American junior red cross) C. C. C キャンプ隊 (civilian conservation corps) 等ノ團體ガ存シ、或ハ職業的陶冶ヲ爲シ、或ハ心身ノ鍛錬ニ力ヲ注ギ、或ハ奉仕精神ノ涵

泰ラ重視スル等ノ相違ハアルガ、青少年ノ自治活動ヲ勵ムシ、集團的行動乃至生活ヲ善得セシメルコトハ共通ノ相ヒデアルト云ヘヨウ。

4、科学研究機關

8 科学研究ハ聯邦政府ノ仕事トシテハトク、寧ロ民間事業トシテ盛行ハレテキル。カ、ル種研究機關又ハ學術獎勵機關ハ非常ニ多ク、ソノ種類、運営方法等モ様々デアルガ、代表的トモノヲ擧ゲレバ次ノ如クデアル。

- (1) スミソニアン・インステイテューション (Smithsonian institution)
- (2) ナショナル・リサーチ・カウンシル (National research council)
- (3) ソーシャル・サイエンス・リサーチ・カウンシル (Social science research council)
- (4) カーネギー・インステイテューション (Carnegie institution)
- (5) ロックフェラー財団
- (6) メロン・インステイテュート・オブ・インダストリアルリサーチ (Mellon institute of industrial research)

〔ソ連ノ教育〕

1、行政組織

ソヴィエト聯邦ニハ全聯邦ノ最高行政機關トシテ全聯邦中央人民委員部ガアルガ、之ニハ教育ヲ專管スル人民委員部ハ含まレテキトイ。教育ハソ連ニマツテハ加緊各自治共和國ノ手ニ委ネラレテキルノデアル。ココニ各共和國中最大ノ人口ヲ有シ、政治・經濟・文化ノ中心ヲトシテキルロシア共和國ヲ代表的ニ探リソノ教育行政組織ヲ述ベテオカウ。

即チロシア共和國人民委員部ニハ教育人民委員部ガ設ケラレテキルガ、ソノ權限ハ(1)普通教育ニ關スル教育内容・教科書ヲ定メ、學校ノ設備・經理・建設ノ計畫 (2)國民教育ニ關スル一般計畫及ビ國民教育ニ對スル國家ノ下附金、補助金、基金ノ管理 (3)地方・州・縣ノ教育課及ビ高等教育機關(一部)、學術研究機關、學部専門部、博物館、遠隔學校等ノ監督・經理 (4)直屬教育機關ノ長官及ビ教職員ノ任免等デアル。一人ノ教育人民委員ヲ長トシ、三人ノ教育人民委員代理ヲ當クガ、外ニ參與會トイフ評議機關ガ設ケラレテキル。

9 右ノ中央機關ニ對シ各地方ニハ地方又ハ州教育課、縣教育課、管區教育部、郡教育課ガアリ、中央・地方又ハ州・縣・郡ニハ夫々視學官ガ居ル。ソノ職能ハ(1)教育人民委員部又ハ各教育課ヲ代表シ(2)諸教育機關・教育行政機關ノ監督、組織ノ改善、學校ノ物的狀態・教科・教授法ノ

改良、成績ノ向上、教員俸給ノ調査・核算ノ發行、法令遵守ノ監督、教育機關ト民衆トノ接近等デアル。

2、教育組織

ソ聯ノ教育組織ハソノ特異ナル國家体制ヲ反映シテオリ、從ツテ之ガ區分モ獨特ト觀點ニ立ツテサレトケレバトライ。即チソレハ大體社會教育、職業教育、政治教育、科学研究ノ四ニ大別セラレルガ、ソノ名稱ノ意味スル所ハ次ニ述ベルヤウニ他ノ國ノソレトハ餘程異トルモノデアル。

(1) 社會教育ノ機關ニハ年齡前教育ノ爲ニ、託兒所、幼稚園或ハ養兒學校、子供ノ遊び場ガアル。託兒所ハ生活ニケ月ヨリ三才迄、ソノ他ハ四才ヨリ七才迄ノ幼児ヲ收容スル。(託兒所ハ保健人民委員部ニ屬スル)

次ニ普通教育ノ爲ニハ初等學校、進中學校、中學校ノ三種類ノ學校ガアル。之ハ夫々四年制。

七年制(セシレトカ)。十年制ヲ並立ノ一條ニ於テ存シ、八才カラ十七才迄ノ少年ヲ收容スル。初等學校ハ完全ニ義務教育デアルガ、日下進中學校ヲ義務化スルコトガ進行中デアリ、何レハ中學校ヲ義務教育トスルコトヲ目標トシテキル。進中學校ニ於テハ音樂・文化ノ各部門ニ屬シコースガ分化サレ、ソノ卒業者ハ中等、專門ニ進出スル權利ヲ有スル。中學校ノ卒業者ハ高等教育機關ヘノ優先入學ヲ認めラレル。

尙社會教育機關ニ含まレルモノエ心身健弱者或チ老弱者・低能者等ノ教育機關ガアル。(2) 職業教育ノ機關ニハ下級・中等・高等ノ三段階ガアル。下級職業教育機關ハ工場學校及ビ之ニ類スル學校デ、現ニ學費ソノ他ノ補助ニ從事シテキルモノニ短期間(六ケ月ト一年)技術又ハ資格ト共ニ普通教育ヲ授ケルモノデ、進中學校ヲ修了者ヲ包含スル。

11 中等ノモノハ各等ノ中等專門學校(テクニクム)デ、工業・農業・交通・經濟・教育・衛生。藝術ソノ他多種類ノ中等專門ガソレデアル。進中學校修了者ヲ入ルセシメ、修業年限ハ三年乃至四年デアル。

高等ノモノハ高等專門學校(インスチット)及ビ大學(アカデミア)デ、中等專門ト同様ニ類別(工業、農業、運輸、經濟、教育、藝術等)サレ、修業年限ハ四年乃至五年デアル。之

ニ入ルシ得ル者ハ中學校及ビ中等專門修了者ノ外學働者專門修了者ヲテアル。深遠トル抽象的理論ヨリモ筆口實際ニ通ジタ高級ノ教師ソノ爲メ各方面ノ知識ヲ修得スルヲ目的トスル。

12

(ハ)政治教育ノ機關ハ成人教育、政治教育及ビ校外教育ノソレノ三層ニ分類サレル。第一ノモノニハ無學考教育所、淺學考ニ校、成年者ニ校、學働大學生ガアル。但メテ初步ノ政治啓蒙又ハ讀・書・算ノ教育ヲ施スモノカラ漸次高次ノ社會科學又ハ手工等ノ技術教育ニ進ミ、年限モ別ケ月ヨリ三ヶ年ニ互ツテキル。第二ノモノニハ政治學校、ソヴェート黨學校、共產大學ガアル。之ハ前者ヨリ一層ハツキリシタ政治教育ヲ主眼トシ、特ニ黨學校及ビ大學生ハ共產黨諸機關ノ黨務員又ハ幹部ノ養成ヲ目的トシテキル。年限ハ三ヶ年乃至五ヶ年デアル。第三ノモノハ圖書館及ビ博物館デアル。尙少年ニ對スル校外指導機關トシテハピオニール組織ガアルガ、之ハ學校ト緊密ニ結合シツツ、集生法及ビ勤勞體驗ノ訓練ヲ行フモノデアル。

(ニ)科學研究ノ機關ハ科學研究所及ビ科學院デアル。科學研究所ハ、八四〇ヲ數ヘ(二二三)ソノ領域ハ天文學、地球物理學、生物學、農工及土壤學等ノ自然科學部門カラ、教育、郷土學、

言語及文學等ノ人文科學部門ニ及ンデキル。

三 本邦ノ教育

1、行政組織

ワガ國デハ中央政府ニ文部省ガアツテ、教育・學務・宗敎ニ關スル事務ヲ掌ツテキル。即チ文部省ハ最高ノ教育行政機關トシテ、ワガ國文教ノ大綱ヲ定メ、地方官ノ教育事務ヲ監督シテキル。而シテ實際ニハ高等教育機關ハ直接之ヲ掌攝シ、初等・中等教育機關ノ監督ハ地方ノ手ニ委ネテキル。教育ノ監督指導ノ任ニ當ル監督官(最近ハ課長官ト改稱サレル)、社會教育官(同上)、体育官ソノ他ヲ指シ、又各種ノ諮問機關ヲ設ケテキル。

13

2、學校教育

學校教育ハ就學前教育、初等教育及ビ青年教育、中等教育、高等教育、師範教育ノ五ニ大別サレル。

(イ)就學前教育ノ機關ニハ幼稚園及ビ託兒所ガアル。何レモ六才未満ノ幼兒ヲ收容スル。兩者ノ領域ハ分明テナイガ大体低年齢ノ者ハ託兒所ニ、高年齢即チ學齡前一年乃至二年ノ者ハ幼

種間ニ於テ教育サレル。(託兒所ハ厚生省ノ所管ニ屬スル)

(b) 初等教育ノ機關ハ國民學校デアアル。修業年限八年デ、少ラキ者も六年、高等科二年ニ分ツ。但シ更ニソノ上ニ一年ノ特修科ヲ備クコトガ出來ル。初等科六年ハ學務省管デアリ、教育ノ目的・方法等ハ國家ノ法令ニヨツテ規定ニ互ツテ決定セラレテキル。

14

青年教育ノ機關ハ青年學校デアアル。國民學校初等科修了ヲ以ツテ入ルル普通科、普通科若クハ國民學校高等科修了ヲ以ツテ入ルル本科ニ分レ、修業年限ハ普通科二年、本科二乃至五年デアアル。外ニ本科卒業者ノ爲ニ研究科ガ置カレル。男子ハ義務制トトツテキル。

(c) 中等教育ノ機關ニハ中學校、高等女學校、實業學校ガアル。前二者ハ高等普通教育ヲ施スヲ目的トシ、修業年限ハ二乃至四年デアアル。後者ハ職業教育ヲ施スヲ目的トシ、農・工・商・水産等ノ學校ニ分レテキルガ、修業年限ハ矢張り二乃至四年デアアル。

(d) 高等教育ノ機關ハ高等學校、專門學校、大學デアアル。高等學校ハ修業年限四年ノ尋常科ト二年ノ高等科トニ分レ、高等普通教育ヲ施シ、大學教育ノ基礎ヲラシムルコトヲ目的トシテキル。

專門學校ハ修業年限三年以上デ、高等ノ學位ヲ授ケルコトヲ目的トシ、農・工・商・水

産・醫・藥・藝術・體育・美術・音樂等各種ニ分化サレテキル。

大學ハ修業年限三乃至四年デ、學術ノ理論及ビ應用ヲ教授シ併セテソノ研究ニ當ルコトヲ使命トシテキル。高等學校、大學豫科又ハ專門學校卒業ヲ入ル資格トシ、法・文・經・理・農・工・醫等ノ單科トシ、ソレ等ノ幾ツカラカニ部トスル綜合大學トガアル。尙各大學ニハ卒業生ノ爲ニ二乃至五年ノ研究科又ハ大学院ガ置カレ、又高等學校ト同様ノ教育ヲ行フ二年ノ大學豫科ヲ備クモノガアル。

(e) 師範教育ノ機關ハ師範學校、青年師範學校、高等師範學校、各種師範養成機關デアアル。師範學校ハ國民學校教員ノ養成ヲ目的トシテ豫科二年、本科三年、青年師範學校ハ青年學校教員ノ養成ヲ目的トシテ三年、何レモ專門學校程度ノ學校デアアル。高等師範學校ハ中學校・高等女學校教員ノ養成ヲ目的トシテ四年デアアル。各種師範養成機關ハ右師範學校又ハ高等師範學校ニ進シ常設的又ハ臨時的二設備セラレテキル。

如上諸種ノ學校ノ外ニ各種職業者ニ對スル特殊教育機關ガアルガ、之ハ初等ノミトラズ中等程度迄ノ教育ヲ授ケルヤウニトツテキル。

3、社會教育

社會教育ノ施設ハ青少年ニ關スルモノト成人ニ關スルモノトニ分ツコトガ出來ルガ、勿論之ハ密ト分テハトイ。

16 青少年教育ニ關スル施設トシテハ男女青少年団ノ組織ガアル。之ハ元來男女青年団及ビ各種少年団ニ分レテキタノデアルガ、現在ハ之ヲ打ツテ一丸トシタ大日本青少年団トシテ存シテキル。學校教育ト緊密トル運動ヲトリツツ校外生活又ハ社會生活ヲ指導シ、特ニ公共精神、団体行動等ニ對スル實際訓練ニ努力スルモノデアル。

成人教育ニ關スル施設ニハ圖書館及ビ博物館、成人教育施設、學務者教育施設、家庭教育施設、文化教育施設等各種ノモノガ包含サレル。成人教育ノ爲ニハ成人教育講座、學務者教育ノ爲ニハ學務者教育講座ヲ開設シ、又家庭教育ノ爲ニハ「母の會」「婦人會」等ヲ活用シ母親會級ヲ開設スル等ノ方策ヲ實施シテキル。尙學務者教育ハ學務者教育中央會、文化教育（國民生活ノ道德的向上ヲ計リ、社會生活ノ改善ヲ圖ルヲ目的トス）ハ中央文化団体聯合會（現在ハ社會教育聯合會）ヲ通ジテ行クト云フヤウニ全國的ト団体ノ活動ガ相當活潑デアル。

4、學術研究機關

自然・人文兩科學ノ分野ニ亙リ學術研究機關トシテハ、學校・大學等ニ附設セラレタモノノ

外官設・私設ノ機關ガアル。即チ官設ニハ帝國學士院、學術研究會、震災豫防評議會、緯度觀測所、電波物理研究所等ガアリ、私設ニハ理化研究所、日本學術振興會、日本學術科學研究所、大原社會問題研究所等ガ存スル。

二、各國教育ノ比較

以上ハ各國ノ教育ト云ツテモ、教育ノ制度ヤ系統ヲ中心トセル形式的部面ノ記述ニ止マツテキタ。併シ之カラ述ベル比較ニ於テハ單ニ制度的部面ニ止マラズ、一層内容的ト問題ニモ關レヤウト思フ。又コノ敘述ハ附録トシタ比較一覽及ビ諸統計ト照合シツツ見ラレンコトヲ望ム。

1、行政組織

17 米國ハ聯邦ニ文部省ノヤウトモノガナク、教育ハ各州ニ委ネラレテキルバカリデトク、各州ニ於テモ教育行政上ノ多大ノ權限ヲ以テ區・町・郡・市ニ移シテキル。ソ聯モ聯邦ノ最高行政機關タル全聯邦中央人民委員部ニ教育ノ主管機關トシテ、各自治共和國ノ手ニ委ネラレテキルガ、併シ普通、高等ノ教育ヲ通ジソノ大綱ノ決定ヤ監督ハココニ握ラレテキル。之ニ對シ聯邦ハ中央ノ文部省ガ全面的ニ教育ノ權ヲ掌握シ、地方行政機關ハ唯ソノ意

ヲ受ケ、シカモ初等及中等教育ノ分野ニ於テ、監督ニ當ツテキルニ過ギトイ。
 カクテ米國ハ最モ地方分權的デアリ、本邦ハソレト對照的ニ中央集權的デアリ、ソレハ大体
 ソノ中間ニ位スルト見ルコトガ出來ヤウ。

尙試ミニ教育費三ツイテ見ルト左表ノ如クデアル。

	年 度	國庫歲出總額	教育費總算	百分比
米 國	一九三三	八五二〇・四 <small>百万ドル</small>	二一・五 <small>百万ドル</small> (二一・〇)	(二〇・三%)
ソ 聯	一九三三	?	二六六八・七 <small>百万ルーブル</small>	五・六%
本 邦	一九三八	三、五一四・五 <small>百万圓</small>	一四六・六 <small>百万圓</small> (〇三三・二)	(三九・〇%)

(註) 米國ノ中(一)ハ聯邦教育費ト地方教育費トヲ加算セルモノ

本邦ノ中(一)ハ本省教育費ト地方教育費總額トヲ加算セルモノ

之ニヨルバ教育費總算ノ國庫歲出總額ニ對スル比率ハソ聯最モ大キク、我方國之ニ次ギ、米國ハ
 最モ小サクトツテキル。尙日米兩國ニツキ地方教育費ヲ加算セル場合ヲ比較シテ見ルト、指
 内ノヤウニトリ、コノ場合モ本邦ノ方ガズツト高イ。但シ之ニ對シテハ、日本ノ官公ノ發給ニ

比シ米國ハ私ガ發給シテキルト云フ相違ヲ念頭ニ浮ベル必要ガアラウ。

2、教育制度

米國ハ憲法ニヨリ教育ヲ州ノ事務トシテキルカラ、教育制度ノ制定・實施等モ一切州ノ權
 限ニ屬シテキル。ソコで初等・中等・高等ノ各級校教育ノ大体ノ枠ハ自ラ一様デアルガ、義務
 教育年限、科目課程、教科書カラ教員任用資格等マデガ各州各様トトツテキル。ソレハ教育ヲ
 加盟自治共和國ニ委任スルトイツテモ、實際上ハソ聯憲法ニ規定サレタ教育ノ根本方針ニ基キ
 制度ガ定メラレル。從ツテ革命以後今日迄ニ五期ヲ畫シテ教育改革ガ行ハレタガ、ソレハ社
 主義國家建設ノ方向ニ添ヒ特ニ累次ノ五ヶ年計畫トニラミ合ハセテ考ヘラレヌ。常ニ本邦
 全体ニ向ツテ示サレ且ツ實行セラレルコトニトル。ソコで教育ニ關スル制度ハ大体全同的ニ統
 一セラレテキル。本邦ハ中央集權的行政組織ニ代表セラレルヤウニ、教育ニ關スル制度・規定
 ハ全同的ニ畫一化セラレテキルバカリデトク、ソレハ科目課程ヤ授業時數ノ細微ノ點ニマデ立
 入ツテ確然ト示サレテキル。

3、學校系統(義務教育)

米國ハ初等學校六ヶ年若クハ八ヶ年、中等學校(ハイ・スクール)六年若クハ四年、高等教

20 音價制（カレッジ）四年ヲ純然タル三段階制ニ則ツテキル。小校ノ設ケテキルハ中・高等ノ小校ニ於テハ多種多様ニトツテキルガ、元來ソレ等ニヨツテ入學資格ヤ卒業資格ニ差異ヲ設ケテキトイカラ、下級小校ト上級小校トノ連絡モ極メテ自由デアル。ソ聯ハ普通教育ハ四年制七年制十年制ノ三本立（即チ初等小校、準中級小校、中級小校）ニトツテ居リ、ソノ上ニ高等教育ガ四年乃至五年授ケラレル。一方職業教育機關トシテハ工場小校及ビ各種中級工門小校（テヒニクム）ガアルガ、之ハ共ニ進中級小校卒業者ヲ收容スル。尙ソ獨特新小校ニ學働者工門部（ラプファク）ガアリ、初等教育程度ノ者ニ特別ノ教育ヲ授ケテ大入學資格ヲ與ヘテキル。本邦ハ大体初等・中等・高等三門・大入學ノ四段階制デ、小校六年、中級校又ハ高等女小校四年、高等小校二年、大入學三年乃至四年ヲ代表的系統トスル。コノ外ニ職業小校及ビ工門小校ガ中等及ビ高等ノ卒業或ハ工門教育ノ機關トシテ存スル。各段階ノ小校間ノ連絡ハ制度的ニハ甚シク阻マレテキルコトハトイノデアルガ、事實上正系傍系ノ如キ差別的取扱ヒガ極メテ多クノ場合行ハレテキテ、實際上ハ甚ダ窮屈デアル。

義務教育ハ米國ハ初等小校ハスベテ義務トシテキルガ、州ニヨリ補習小校或ハ中等小校下級年迄ヲ義務年限トシテキル所モアル。現在多數ノ州ハ滿七才カラ十六才迄ヲ就學義務年限トシ

テキル。ソ聯ハ滿八才（實際ハソノ前年カラ入學サセルカラ七才）カラ始メテ十年制小校ノ義務化ヲ目標トシテキルガ、現状ハ漸ク四年制小校ノ義務制ガ完了シ引續キ漸次七年制小校ニ及バンメヤウトシテキル狀況デアル。本邦ハ國民小校初等科ガ義務教育デアリ、尙男子ノ青年小校ガ義務制デアル。依ツテ男子ニ於テハ最長十一年ガ義務年限デアルコトニトル。

尙小童兒童ノ就學率デアルガ、米國ハ一九二五年ニ於テ十三州平均七〇乃至八〇%ト却ゼラレテキル。本邦ハ昭和十年（一九三五年）ニ於テ全國就學率合九九・五八%デ世界デモ有數ノ就學率デアルコトハ衆知ノ如クデアル。（ソ聯ハ資料ヲ入手シトイノデ比較出來トイガ、教育普及計畫ニ伴ヒ初等小校ノ設置ガ國內僻遠ノ地迄行ハレルヤウニトツタ今日ハ就學率合モ餘程高マツタモノト推セラル。）

21 4、教育ノ根本方針

米國教育ノ根本精神ハ建國以來ノ鐵則タルデモクラシーデ、教育モ結局コノ精神ノ具現ノ方向ニ添ツテ行ハレル。所謂民主主義教育トハ個人ノ自由ヲ尊重シ、個人ノ進歩ノ機會ヲ開キ、自己ヲ支配シ不平等ヲ排斥スル精神ヲ養成スルコトヲ主眼トスルモノデアル。

ソ聯教育ノ根本ハソノ憲法第一章第八條ニ規定セラレテキル。即チ曰ク「ロシア社會主義聯

邦ソツイエト共和ハ勤學大衆ニ眞ノ知識啓發ノ自由ヲ保障スルタメ、無料ニシテ全般的ナル教育ヲ授クルヲ自己ノ任務トス」ト。

22

之ニ對シ本邦教育ノ基礎ハ明治天皇ノ昭示サレタ「教育ニ關スル勅語」ニ存スルト云フコトガ出來ル。ソレハ結局古今ヲ通ジテ謬ラズ中外ニ施シテ悖ラザル皇國ノ道ノ合得ト實踐トデアル。(コノ趣旨ハ今ヤ民主主義日本ノ建設トイフ) 家ノ大方針ニ鑑ミ、個性ノ完成ト社會ニ家ヘノ奉仕ノ二目標ニ向ツテ具体化セラルベキコトトツタワケデアル。

5、教員養成(在學者數)

教員養成ハ各段階、各種類ノ學校教育ノ普及發展ノ上ニ重大ナル關係ヲモツモノデアルコトハイフ迄モトイ。米國デハソレハ大体師範學校ト師範カレッジトノ二途ニ於テ行ハレル。何レモハイ・スクール卒業者ヲ收容シ、小學校教員及ビ中等教員養成ノ爲ニ年乃至四年ノ教育ヲ授ケルガ全般的ニ次第ニ高イ教育ヲ與ヘシツカリシタ能力ヲ付ケヤウトスル傾向ガ見ラレル。ソノ一ツノ現レガテイチャーズ・カレッジ又ハ大ニ教育ニ部ノ増加デアル。ソレデハ中等教育ニ門學校ガミラ初等教員養成ニ當ツテ居リ、ソレニハ師範前教育、學校教育、政治啓蒙教育、少数民族教育ノ諸科ガ設ケラレテキル。又中等教員ノ養成ハ高等專門學校中ニソノ專門ノモノガ

アル。本邦デハ國民學校教員ノ爲ニハ師範學校、青年學校教員ノ爲ニハ青年師範學校、中等教員ノ爲ニハ高等師範學校トイフヤウニ夫々ノ目的ニ對シ別々ノ養成學校ガハツキリ定マツテキル。右ト關聯シテ之等學校ノ在學者數ヤ學校數ヲ通シ頗ル興味アル事實ガ發見サレル。今試ミニ略同年代ノ日米兩國ノ統計ヲ見ルト左ノ如キ數字ガ現レテキル。

初等教育機關兒童數	本邦(昭和十二年)	米國(一九三八年)
	一一七九二七三八	二二、一〇六、四四七
教員養成機關生徒數	三五三六〇	一四、五六四九

〃小學校及幼稚園ヲ含ム

初等教育機關數	本邦(昭和十五年—十七年度)	米國(一九三八年)
	二五八一七	四、七七八
中等教育機關數	〃二二、〇一一	二六〇、四四六

〃中等學校及青年學校ヲ含ム

マツ初等教育機關兒童數ハ米國ハ本邦ノ約二倍トナツテキルガ、之ハ總人口ガ略同様ノ關係(米國總人口ハ日本内地人口ノ約二倍)デアルカラ一應ソレデヨイトシテオク。所ガ教員養成機

學生徒數ハ本邦ノ三万五千ニ對シ十四万五千デ約四倍ニトツテキル。カク多數ノ教員ガ養成サレ之ガ各學校ニ配置サレルコトハソレダケ國民教育ガ眞ニ徹底化サレルコトニトルト考ヘトケレバトラヌ。次ニ初等・中等教育機關數ヲ見ルニ、本邦ノ四万七千ニ對シ米國ハ二十六万デ五倍強ニトツテキル。之ハ即チ一學校ニオケル兒童生徒ノ數量的單位ノ小サイコトヲ示スモノデアリ、之亦ソレダケ教育ガ個々ノ兒童生徒ニ對シ徹底スルコトヲ意味スルモノデアル。

尙ソ聯ニ關シテハ資料ガナインデ同様ノ考察ガ出來トイ。

6、女子教育(男女共學)

女子ノ教育ハ男女ノ教育ニ於ケル機會均等ノ觀念ノ視點ヨリ近年特ニ注目セラレキタツタ間續テアル。米國ハデモクラシーノ精神ニ基キ石ノ原則ヲ最モ尊重スル國デアルガ、ソレハ實際ニ於テ特ニ高等教育ノ方面ニ於テヨク現レテキル。即チ初等教育・中等教育ヲ通ジ男女ニ各々特有ノ教科ヲ與ヘルコトハアツテモソレハ極メテ小範圍ニ止マリ、又男女ニヨツテ程度ノ差ヲツケルヤウトコトハ全く見ラレトイ。從ツテ高等教育ヲ受ケル女子ノ數モ極メテ多ク、一九三四年ニ於ケル在學生ハ男子五七〇、五一四八ニ對シ、女子ハ三〇八、六六二人ニ達シテキル。尙大ニ學部及ビカレッツヂノ總科別統計ニ現レタ所デハ、職業教育部門ヨリモ文理科教育(

liberal arts) 部門ニ入ル者ガズツト多イ。即チ右ト同ジ年ノ統計デハ、工業技術關係學部及ビカレッツヂニ於テハ女子學生ハ皆無デアルガ、文理科學部及ビカレッツヂニ於テハ男子二八三、一八九ニ對シ女子ハ二二七、四三〇ニ及ンデキル。但シ職業教育部門デモ理科ニヨツテハ女子學生ノ數ノ相當多イモノモアリ、中デモ教育學ノ如キハ男子五六、二五四ニ對シ女子ハ一二五、五五八デ男子ヲ遙カニ凌駕シテキルコトヲ一言シテオク。

ソ聯モ一切ノ教育ニ於ケル男女ノ平等ヲ大原則トシテキルノデ、女子ニ對シテハ全く男子ト同様同程度ノ教育ヲ授ケテキル。ソノタメコノ國デモ高等教育機關ニ在ル女子ノ數ハ相當多ク、一九二七・八年ノ統計デハ大學及ビ高等專門學校ノ學生中女子ハ二九・五%ヲ占メテキル。尤モ之ハ工業專門ノ如キ約八%シカトイ部門モアルタメカ、ル數字トトツタノデ、大學ダケヲトレバ四四%、教育專門及ビ醫學專門ノ如キニ於テハ共ニ五一%デ男子ト略同數ノ席ヲ占メテキルノデアル。尙一九三五年ニトルト、工業及ビ運輸ノ高等專門學校デモ女子學生ハ二三・三%ニ増加シ、農業專門デモ一九二七・八年ノ一四・八%カラ三一・八%ニ著増シテキル。

本邦ハ明治以來女子教育ニ對シ留意スルコトヲ全く怠ツテキタトイフコトハトイノデアルガ、實際ニ於テ政府モ國民モ比較的ニ關心ガ薄カツタコトハ認めザルヲ得トイ。制度上ニ於テモ女

26 子ニ對シ門戸ヲ閉鎖セル教育部門ガアリ、又内容ノ點デモ男女ニヨリ教育程度ニ可成ノ差ガツケラレテキル結果ガ、米ソ兩國等ニ比シ著シイ女子教育ノ現況ヲ招來シテキルノデアル。中等學校ニ於テハ高等女學校生徒數ハ男子ノ中學校生徒數ヲ凌駕スルトイフガ、實業學校ニ於テハ生徒總數ニ對スル男女ノ比率ハ男子ノ七七・八%ニ對シ女子ハ二二・二% (昭和十二年) デズツト低イ。高等專門學校デハ男子八五・四%ニ對シ女子一四・六%デ、大學ニ至ツテハ男子ノ九九・六%ニ對シ女子ハ僅カ〇・四%ニ止マリ、女子ニ對スル高等教育ノ貧困ト實情ハ蔽フベクモトイノデアル。

男女共學ニ關シテハ米國ハ各段階ヲ通ジ原則トシテ共學制デアルガ、ハイ・スクール及ピカレッジノ中ニハ分離制ノモノモ可成アル。ソ聯ハ最初共學制ヲ標榜シテキタガ一九四三年九月ヨリ之ヲ廢止シタ。本邦ハ中等學校以上ハ分離制ガ本体デ極メテ僅カ共學ノ特例ヲ見ルニ過ギトイ。

7、私立學校

學校ノ經營主体ニオケル公私ノ別ハソノ教育上ニ種々トル形デ反映スルバカリデトク、延イテハ國ノ學校教育全体ニ對シ一種ノ特殊性ヲ附與スルノデアル。米國ハ私立學校ガ非常ニ發達

シタ國デアル。ソノ數ニ於テハ普通教育 (初等・中等ヲ併セテ) 機關ハ公立二五九、一五九校ニ對シ私立一二、九二三校、高等教育 (カレッジ及大學) 機關ハ公立二九三校ニ對シ私立八七八校 (一九三一年) トイフ數字ガ現レテキル。之ニヨレバ普通教育デハ公立ガ私立ノ約二十倍デアルガ、高等教育デハ逆ニ私立ガ公立ノ三倍強デ、米國ノ私立學校ハ特ニ後者ニ於テソノ特色ガ發揮サレテキルト見ルコトガ出來ヤウ。實際米國ノ高等教育ハコノ多數ノ私立ノカレッジ及ピ大學ニヨツテ極メテ多彩ニ且ツ活潑ニ行ハレテオリ、ソレガ米國民ノ國ノ内外ヲ通ジテノ旺盛ト活動・發展ノ根源ニツチカツテキルコトハ否定デキトイ。

27 之ニ對シ本邦ニ於テハ、普通教育機關デハ官公立一八、六七二校ニ對シ私立一、五七九校、高等教育機關デハ官公立一二二校ニ對シ私立一四四校デ、前者デハ公立ガ多ク、後者デハ私立ガ多イコトハ米國ノ場合ト同様デアル。併シトガラ普通教育ニ於テ公立ガ私立ヨリモ多イコトハ米國ト同步調デアルガ、

高等教育ニ於テハ私

立ノ公立ヲ凌駕スル數ハ僅々三二校デアルニ對シ米國ノ三倍強デアル。 我カ國ノ私立教育機關ノ不振ハココニハツキリ觀取サレルガ、コノ數字ハソノ偏私立學校ノ教育ソノモノノ

低調・不活潑ト經營上ノ様々ト缺陷・障礙トヲ物語ルモノデアル。

公私立ノ對照ヲ一層顯著ニ示スモノハ教員養成機關ノ面デアル。即チコノ教員養成機關ハ、米國デハ公立二五二一校ニ對シ私立三八校（一九三一年）デアルノニ、我方國デハ官公立一五八校ニ對シ私立皆無デアル。私學機關ノ劣勢ハココニ於テ極マレリトイフベキデアル。如上ヲ通ジ之モ結局ハ我方國從來ノ一大通弊デアル官立民學ノ觀念ノ一ツノ塊レニ外トラヌト考ヘラレルノデアル。

28

ソ聯ハ一切ノ教育ヲ國ノ手デ行ツテキルノデ、私立學校ノ問題ハココニハ自ラ存在シトイ。唯學働組合或ハコルホーズノ經營ニヨル學校ノ如キモノガアルガ、之モ他ノ國ノ私立學校トハ全然性質ヲ異ニスルノチ、之ヲ私立トシテ論ズルコトハ當ラトイ。

8、職業教育

職業教育ハ學校ヲ卒業シタ後社會ニ於ケル諸職業分野ヲ擔當シ國ノ生産的活動ニ直接貢獻スル爲ノ教育トシテ、又更ニ之ガ事實上國民中ノ非常ニ多數ヲ占メル者ニ對スル教育トトル意味カラ極メテ重要ト意識ヲモツモノデアル。

米國デハ早クカラコノ種教育ノ領域ニモ注意ヲ拂ツテタガ、特ニ第一次世界大戰頃ハ非常

ト努力ヲ傾ケタ。即チ一九一七年スミス・ヒューズ法ガ聯邦議會ヲ通過シココニ職業教育振興ノ第一歩ガフミ出サレタガ爾後中等教育ニ於ケル職業教育ハ急速ト發展ヲ見タ。右法案以外聯邦ノ國庫補助ニヨル教育ノ特殊部門ノ振興ハソレ以前カラモ農工部ノ産業部門ノ教育又ハ教育ニ關係ノアル方面ニ向ケラレテキル（例ヘバ一九一四年ノスミス・レーヴァー法、一九二〇年ノスミス・バンクヘツド法）コトハ注目スベキデアル。尙職業教育ニ關シテハ補修學校モ重要ト役割ヲ演ズルノデアルガ、多クノ州ハコレヲ義務教育トシテキル。

29

右ハ最も明白ニ現レタ事柄デアルガ、コノ外米國デハ初等學校カラ大學ニ至ルスベテノ學校教育ニ於テ、將來社會ニ出テカラノ職業ヲ連ジテ奉仕活動ヲ大前提トシタイハバ産業ノ職業教育ガ行ハレテキルコトヲ看過シテハトラヌ。又ソノ根本理念カラ、所謂一般陶冶ト職業陶冶トノ間ニ何等優劣後先ノ觀念ガ介入シトイデ、職業教育ガ中等・高等ノ教育機關ヲ通ジ一般教育ト立派ニ肩ヲ並ベテ行ハレテキルコトモ注目ニ値スル。

ソ聯ハ元來學働ヲ以テ國是トスル國デアルカラ、職業教育ニ努力ヲ傾注シテキルノハ蓋シ當然デアル。前述ノ教育機關ノ分類ヲ見テモ、職業教育ハ社會教育及ビ政治教育ト並ンデ三大領域ノ一ヲ占メ、特ニ中等教育及ビ高等教育ハ殆ト全ク職業的的教育ニトツテキルノデアル。ソノ

外一般教育タル初等學校ノ教授内容ニシテモ、又政治教育タル成年學校等ノ指導事項ニシテモ
 農工其ノ他ノ産業ニ關スル知識又ハ技術ニツキ授ケルコトガ常ニ十分考慮サレテキルノヲ見ル
 ノデアツテ、ソ聯ノ教育ハ即チ是職事教育デアルトイツテモ過言デトイトサヘ思ハレル。
 本邦デハ職業教育ハ主トシテ實業學校及ビ青年學校ヲ通ジテ行ハレル。又專門學校モソレヨ
 リ一段高次ノ職業的陶冶ヲ施スル核ト見ルベキデアラウ。コノ點ハ米國ト略同様ノ如ク考ヘラ
 レル。尙明治二十六年ノ井上文相ノ實業教育振興ノ方策樹立以後屢々斯教育刷新ノ懸望ガカケ
 ラレタコトハ事實デアアル。ケレドモ教育ノ事情ハ遺憾トカラ餘リ振ハトイノデアアル。學校教育
 ニ現レタ所デハ職業教育關係極ニ決シテ一般教育學校ニ比シ甚ダシク遜色ガアルトハイヘト
 イガ、眞ニ社會國家ノ要求ニ應ヘルヤウト職業教育ガソレ等ノ學校ニヨツテサレテキルカド
 ウカハ甚ダ疑問デアアル。ソノ結果トイフヨリモノノ原因トシテ考ヘラレルノハ從來我方國デハ
 職業教育ハ一般教育ヨリモ一段低イ教育デアルトカ、眞ノ教育ハ職業的陶冶カラ全ク離レタ教
 育デアルベキダトイフヤウト理念ガ教育者バカリデタク國民全体ノ間ニ浸ミ込ンデキルコトデ
 アル。カカル職業教育卑賤視ガ横行スル限り、職業教育ガ振興處デハトク萎靡沈滞ノ狀態ニ止
 マリ、紙イテハ國民ノ活潑ト職業活動ノ原動力ヲ養フコトヲ阻止スルコトハ自明デアアル。

9、奨學制度（入學試験）

奨學制度即チ種々ノ手段ニヨツテ學業ノ修得ヲ奨勵援助スルコトハ教育效果ノ向上、教育ノ
 機會均等、人材ノ育成等ノ意味カライツテ認メテ必要ト方策デアアル。然ルニ米國ニ於テハコノ
 制度ハ餘リ發達シテキトイ。殊ニ世界デ最モ發達シタ國デアアル英國ニ比ベルト著シク遜色ガア
 ルト言ハレル。之ハ米國ニ於テハソノ必要ガ少イ爲ダト考ヘラレテキル。即チ米國ノ公立學校
 ハ小學校カラ大學ニ至ルマデ無月謝ヲ原則トシテキルコト、一般ニ富ノ程度ノ高イコト、中等
 學校ヤカレッジガ多數國内ニ普遍的ニ設備サレテキルコト等ガ特別ト奨學手段ノ必要ヲ強ク感
 ゼシメトイノデアアル。唯高等教育特ニ大學ニハ多カレ少カレ奨學制度ガ設ケラレテキル。ソレ
 ハ奨學金トシテ授業料ヤ生計費ガ支給サレルノデアアルガ、之ハ貧困學生ノ救助トバカリデタク
 優秀學生ノ表彰ノ意味デ與ヘラレ、又ソノ支給方式ニハ全然贈與シテシマフモノト、就職後ノ
 返還ヲ約束スル貸與ノモノトガアル。之ニハ各學校個々ノ施設モアルガ、ロツクフェラー財團
 ノ如ク全米ヲ對象トシタ組織体モ存スル。

ソ聯ニモ奨學制度ガアリ、學生ハ能力ニ應ジテ奨學金ヲ與ヘラレルノデアアル。但シソ聯ニオケ
 ル奨學金ハ一九四〇年以後ハ優秀ト成績ノ學生ノミニ支給セラレルコトニトツテキル。給費ニ

對シテハ修業後關係人臣本部ノ指令ニ從ヒ所定ノ期間特定ノ勤務ニ服スル義務ヲ課セラレル。
本邦ニ於テハ從來個人、團體又ハ學校ノ手ニヨル奨励・育英制度ガ存シ、才能アル者ノ修業
ニ對シ給費又ハ貸費シテキタガ、ソノ規模ハ小サク、多クハ一地方又ハ一校内ニ限ラレテキタ。
ソコデ政府ハ國家的育英事業ノ計畫ヲ興シ、昭和十九年特殊法人法ニ基ク大日本育英會ヲ設立
シテ廣ク國內ノ學資無キ優秀生徒ニ貸費スルコトトナリ、爾來同會ノ事業ハ圓滿ナル發展ヲ見
ツツアル。

奨励乃至育英ノ問題ニ關聯アル一ツノ問題ニ入學試験制度ガアル。米國ニ於テハ小學校カラ
中等學校ヘノ進學ハ原則的ニハ無試験デ、唯小學校カラ上級學校ヘ志願者ノ成績・能力・体格
ソノ他ニ關スル記録ヲ提出スルダケデアル。中等學校カラカレッツチヘノ入學ニ當ツテハ一種ノ
試験ガ行ハレルガ、ソレハ必ズシモ學科試験デハトイ。特定學科ニツイテ試験ヲスルモノモア
ルガソノ他サーティファイケート(志願者ノ身分、學業等ニ關スル證明書)ノ査定ニヨルモノ、
試験トサーティファイケートトノ組合セニヨルモノ、サーティファイケート・心理學的試験・志願
者ノ詳細ト履歷ノ綜合ニヨルモノ等ガアリ凡ソ七種ノ方法ガ取ラレルノデアアル。カクテ米國
ニ於ケル上級學校進學ハソノ査定方法ガ畫一的デトイコト、各種ノ學校ガ多岐アルコト、更ニ

特定學校卒業ニ特權ノ有無ヤ優劣ノ觀念ノ伴ハトイコト等ノ原因ニヨリ入學難トカ試験地獄ト
カノ好マシカラヌ現象ハ全ク生ジトイ。
ソ聯デモ學校ノ入學ニハ試験ガ行ハレル。併シトガラコノ點ニ於テモ多様變ノ學校ニ對シ志
願者ハソノ能力・希望ニ從ヒ各自夫々ノ道ヲ選ブコト、學校内ノ轉學ヤ學校間ノ聯絡ニ自由ト
路ガツケラレテキルコト、學校事務ト關係トノ間ニ密接ト關係ガ保タレテキテ相當ノ年齡ニト
ツテモ學校ニ入レル(例ヘバ中等專門ハ滿三十才迄、高等專門及ビ大學ハ滿三十五才迄)コト
等ノ理由デ入學難ニ伴フ種々ノ現象ハ見ラレトイ。

本邦ニ於テハ初等學校カラ中等學校、又中等學校カラ高等專門學校ヘノ進學ニ際シテハ何レ
モ入學審査ガ行ハレル。ソノ方式ハ大体口頭又ハ筆答若クハ兩者ヲ併セテ試問、身体検査、出
身學校ヨリノ報告書ノ綜合査定デアル。然ルニコノ入學審査ニハ從前カラ入學試験地獄トイフ
ヤウト甚ダ忌ハシイ言葉ガ用キラレテキル厄介ト問題ガ附キマツテキル。ソノ原因ハ勿論國
民一般ノ教育尊重ノ觀念及ビ生徒ノ旺盛ト向學心ニ對シ、學校ノ收容量ノ擴張ガ追付カトイト
イフコトモアルガ、併シ決シテソレ丈デハトイ。ソレニハ學校卒業ニ伴フ特權、立身出世本位
ノ進學希望、學校ノ種類ニ對スル誤レル優劣感、公私立學校ニ對スル因習的ト差別感等ニヨリ

アル種類ノ而モアル一ツノ學校ニ志願者ガ集中スルコトガ原因ヲトシテキル。コノ方ガ寧ロ前
者ヨリモ大キト原因トトツテキルト考ヘテモヨイノデアリ、之ハ校ガ特有ノ現象デ太イニ考
ヘトケレバトラ又重要問題デアル。

10、特殊教育

ココニ特殊教育トイフノハ身體的の缺陷者、及ビ精神薄弱、性行不良ノ如キ精神
的缺陷者ノ教育ヲ指ス。米國ニ於テハカナル心身的缺陷ノ所有者ニ對スル教育ニ對シ非常ト注
意ガ拂ハレテキル。ソレハ統計ニ現レタ所デモコノ種教育ノ爲ノ學校ガ一八校、ソノ收容者
數ガ四三、一〇六名（一九三八年）ノ多數ニ上ツテキルコトガヨク明證ツテキル。唯尙ガ多イ
トイフダケデトク、ソレ等ノ學校ニ於ケルソノ爲ノ特殊ト施設モ完備シ、特ニ夫々ノ缺陷ニ對
スル特殊ト教育指導法ニ關スル研究及ビ實際ノ方面モ、活潑ニ行ハレテキル。

ソ聯ノコノ種類ノ教育機關ニ關シテハ一九二六年ニ於テソノ數一八三、收容兒童數一四、六
三二トイフ數字ガアル。而シテ種々ノ消息ヲ通ジ、ソ聯ガ之ニ缺陷者ノ指導ニ努力シ、彼等ヲ
シテソノ能力ニ應ジ職業的活動ニ從事セシメ、又ソノ缺陷能力ヲ補フ如キ特殊能力ヲ伸長セシ
メルヤウト考慮ヲ拂ツテキルコトモ顯ハレルノデアル。

本邦デハ 聽障教育ノ學校ハ統計面ニハ一四〇校、生徒數一一、〇三〇名（昭和十二年）ト
現レテキル。精神的缺陷者ノ學校ハ數字ナシキトイ。〔精神薄弱者ノ爲ノ特殊等級ガ若干ア
リ、又文部省所管外ニ不良者ノ救護機關ガアルガ、之等ハ文部省ノ事務外ニハ載ラトイ〕教
カライヘバソ聯ノソレト略同ジ位デアルガ、米國ノソレニハ過カニ及バズ、教育ノ實際ニ於テ
モ施設・指導法共ニ遺憾トカラ尙甚ダ遅レテキル情況ニアル。ソレハ我方國ニ於テハカナル方
面ガ教育當業者及ビ國民一般ノ關心ノ外ニ置カレル傾キガアル爲デアルガ、之ハ結局人權ノ重
重、教育ノ均整、個人能率ノ重視等ノ觀念ノ不十分ナルコトニ歸セラレルト考ヘラレル。

11、社會教育

米國ハ社會教育ニ非常ニ力ヲ入レテキルガ、就中成人教育ノ部面ニ於ケル大ニ擴張、青少年
ノ部面ニ於ケル各種ノ團體活動ノ普及發展ニハ目覺マシモノガアル。又圖書館・博物館ハ必
ズシモ成人教育施設デハトク、青少年ヲモ對象トシテ教育的機能ノ發揮ニ努力ガ拂ハレテキル。
博物館ハ一九三〇年ニ於テ七八一館ヲ算スル。

ソ聯ハ成人教育ノ主目標ヲ政治教育ニオキ共產主義精神ヤ政治意識ノ昂揚ヲ計ツテキル。又
校外教育機關トシテノ圖書館・博物館ニモ多大ノ關心ガ拂ハレ、圖書館數ノ如キ三二、四五六

(一九三三年)ニ及ンデキル。

36 本邦デハ從來社會教育ノ方面ハ、各種施設ガ一通リ行ハレテハキルガ、實際ハ餘リ成績ヲ擧ゲテキトイ。之ハ一般ノ關心ガ學校教育ニ甚ダシク偏倚シ、爲ニ社會教育ノ重要性ニ對スル認識ガ極メテ不十分デアツタコトニ因ル。ソノ結果、例ヘバ圖書館ノ如キモノノ數僅カニ四、七五二(昭和十二年)ニ過ギズ、然モノノ活動ハ讀書ヲ通ジテノ教育トイフヤウト積極面ヲ缺イテキル如キ實情ヲ招來シテキル。

12、科學研究機關

科學若クハ學術研究機關ハ學校教育機關ニ對シテ、又一面ニハソノ補助タル教育的機能ヲモ擔當スル點デ國家ノ文化的發展上頗ル重要ナル使命ヲモツモノデアル。

米國ニ於テハ民間事業トシテ之カ非ニ多ク又内容モ立派ニ施設整齊サレテキル。サウソノ研究ノ成果モ年々誠ニ見ルベキモノガ現レソノ集積ハ國內ノ物心兩面文化ニ對シテノミトラス全世界ノ學術ノ進展ニ大キル寄與ヲトシテキル。

之ニ對シソ聯テハ科學研究施設ハ國家ノ手ニヨツテトサレ、多種ニ互ル研究所ハ龐大トル人員ヲ收容シテ各方面ノ問題ヲ研究シテキルガ、特ニ龐大トル財力ノ資源ノ探索及ビ利用ニ大キ

ト成績ヲ收メツツアルコトガ注目サレル。

本邦ニ於テハ官民兩種ノ研究機關ガアリ、相呼應シテ學術諸分野ノ研究ニ從ツテキル。併シトガラ之迄ノ情況ハソノ數ニ於テ又研究業績ニ於テ尙満足ハ域ニハ、遠イコトヲ率直ニ認メザルヲ得トイ。

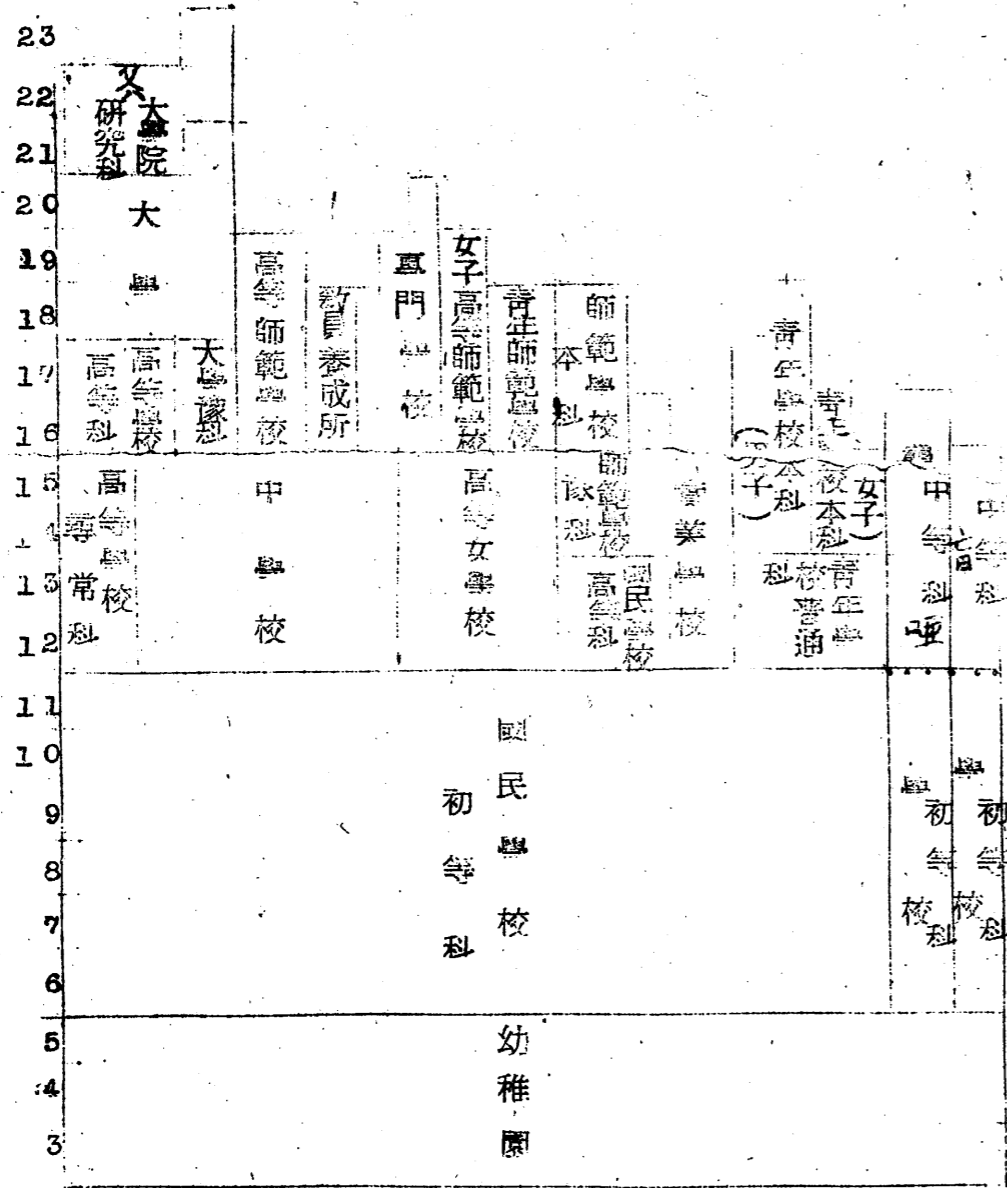
(註記)

以下ニ掲ゲタル校系統圖及ビ統計表ハ各圖ノ年次ガ必ズシモ一致シトイガ、之ハ資料ノ關係上已ムヲ得トカツタノデソノ稽リテ見ラレタイ。

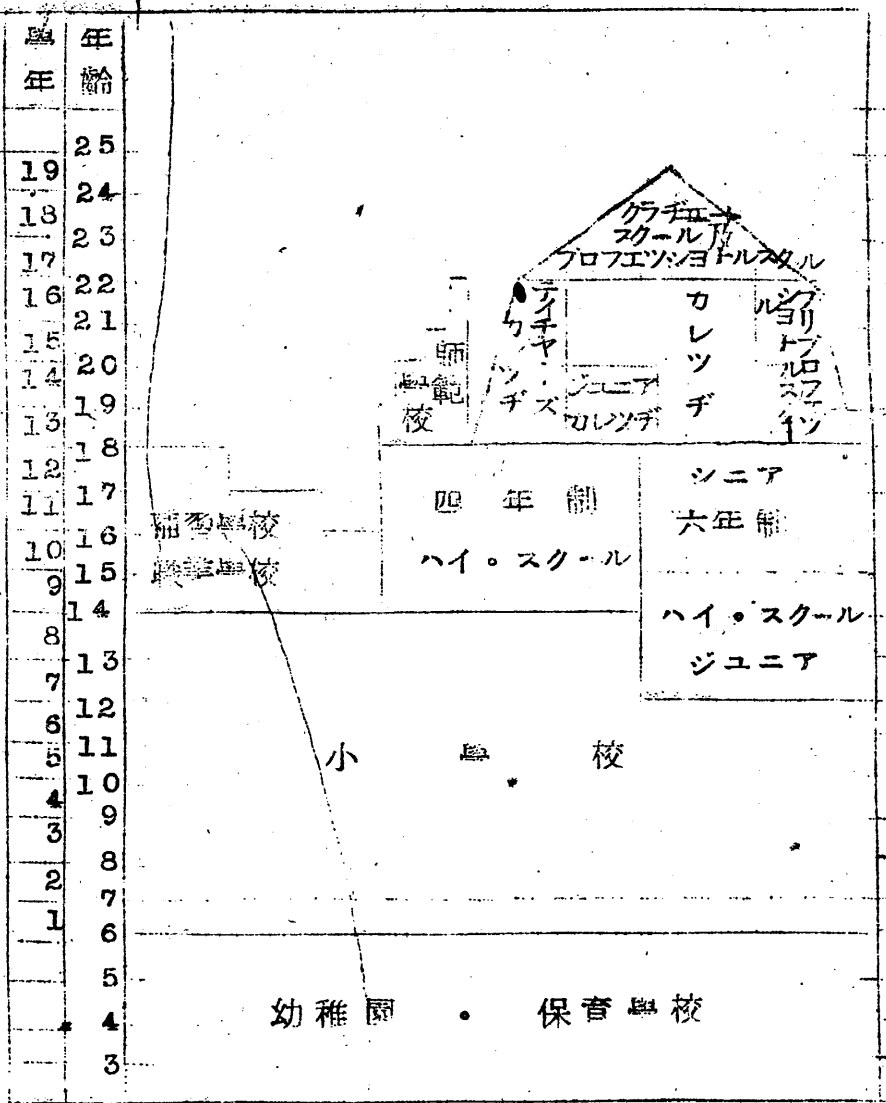
参考文献

- 1、岩波教育辭典、アメリカ合衆國ノ教育ノ項(阿部重孝執筆)
- 2、同右、ソヴェイエト聯邦ノ教育ノ項(山下徳治執筆)
- 3、岩波講座「教育科學」、亞米利加ノ教育、高山嶽執筆
- 4、同右、ソヴェイエト・ロシアノ教育、龍田岩男執筆
- 5、文部省社會教育局、歐米各國社會教育概論、米國ノ社會教育ノ項、昭和十五年
- 6、Magruder, F. A. American Government, 1944
- 7、Mathews, M. American State Government, 1934
- 8、Macdonald, A. F. American City Government, 1942

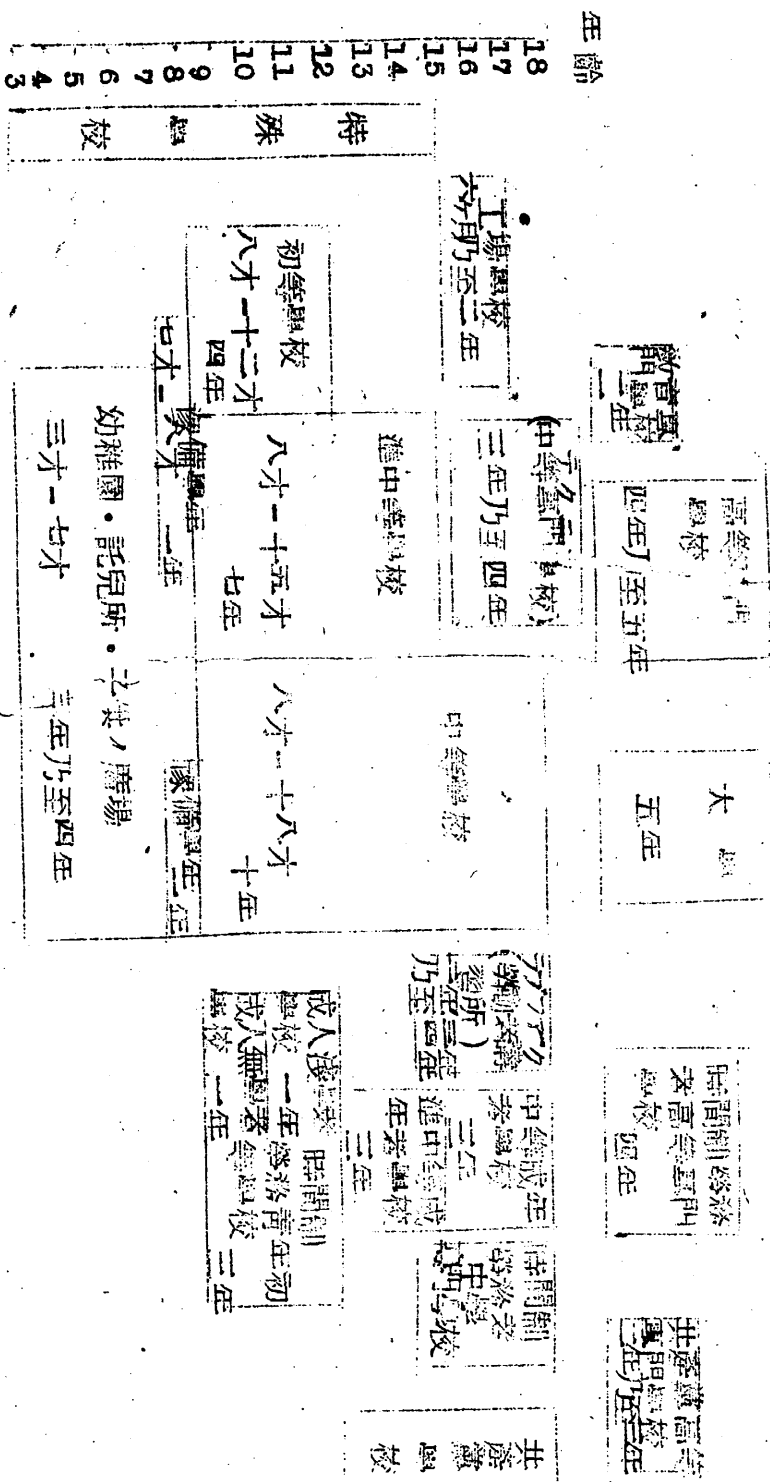
圖表二(1) 本邦學校系統圖(昭和二十年 1945)



圖表二(2) 米國學校系統圖 (1937)



圖表二(3) ソヴェト聯邦教育系統圖 (1936)



表三(2) 米國學事統計(1938)

學校數		學生生徒児童數	
初等學校 及 中等學校	公	247,127	小學校公 19,842,744 及私 2,263,703 幼稚園計 22,106,443
	私	13,319	ハイスクール 公 6,202,011 私 452,789 計 6,714,800
	計	260,446	大及カレッジ 公 7,712 私 25,162 計 32,874
大及カレッジ	公私計	1,397	551,815 653,441 1,205,256
	計	253	137,668
師範學校及師範大	公私計	293	7,981 145,649
	計	293	145,649
市立夜間學校 私立商業及事務學校 法政養成學校 公立ボイアン學校	公	651	1,016,435
	私	-	102,256
	計	651	1,118,691
	計	651	1,118,691
盲學校	公私計	79	11,300
	計	79	11,300
精神薄弱者學校	公私計	55	4,066
	計	55	4,066
性行不良者學校	公私計	130	15,366
	計	130	15,366
計	公私計	154	4,713
	計	154	4,713

圖表三(1) 本邦學事統計(昭和十九年 1944)

學校數		學生生徒児童數		新員數
國民學校	26,340	12,914,273	304,066	
青年學校	15,583	2,615,999	100,873	
中等學校	807	622,733	20,876	
高等女學校	1,263	800,531	26,586	
實業學校	1,996	820,718	28,743	
其他中等學校	109	32,245	1,502	
師範學校及教員養成所	131	73,007	4,471	
高等師範學校	5	4,073	328	
專門學校	官	94	62,893	3,915
	私	44	11,348	938
大學	官	152	122,007	6,411
	私	4	2,377	116
高等學校	官	2	668	43
	私	28	22,428	854
專門學校	官	26	22,610	1,173
	私	3	2,077	136
大學	官	4	3,106	224
	私	7	24,619	2,477
專門學校	官	12	6,120	753
	私	2	1,009	97
專門學校	官	28	32,730	1,756
	私	141	4,072	1,425

註
1、本國統計
2、本國統計
3、本國統計
4、本國統計
5、本國統計
6、本國統計
7、本國統計
8、本國統計
9、本國統計
10、本國統計
11、本國統計
12、本國統計
13、本國統計
14、本國統計
15、本國統計
16、本國統計
17、本國統計
18、本國統計
19、本國統計
20、本國統計
21、本國統計
22、本國統計
23、本國統計
24、本國統計
25、本國統計
26、本國統計
27、本國統計
28、本國統計
29、本國統計
30、本國統計
31、本國統計
32、本國統計
33、本國統計
34、本國統計
35、本國統計
36、本國統計
37、本國統計
38、本國統計
39、本國統計
40、本國統計
41、本國統計
42、本國統計
43、本國統計
44、本國統計
45、本國統計
46、本國統計
47、本國統計
48、本國統計
49、本國統計
50、本國統計
51、本國統計
52、本國統計
53、本國統計
54、本國統計
55、本國統計
56、本國統計
57、本國統計
58、本國統計
59、本國統計
60、本國統計
61、本國統計
62、本國統計
63、本國統計
64、本國統計
65、本國統計
66、本國統計
67、本國統計
68、本國統計
69、本國統計
70、本國統計
71、本國統計
72、本國統計
73、本國統計
74、本國統計
75、本國統計
76、本國統計
77、本國統計
78、本國統計
79、本國統計
80、本國統計
81、本國統計
82、本國統計
83、本國統計
84、本國統計
85、本國統計
86、本國統計
87、本國統計
88、本國統計
89、本國統計
90、本國統計
91、本國統計
92、本國統計
93、本國統計
94、本國統計
95、本國統計
96、本國統計
97、本國統計
98、本國統計
99、本國統計
100、本國統計

註 1、本統計ハ、"The State Man's Yearbook" 1941 所載ニ基ク
 2、本校数ト生徒数トノ欄ノ記載方一致シナイノハ別々ニ載セラレテキタ事ヲ一表ニマ
 トメタ爲デアル

(参考) 1、"Biennial Survey of Education 1928-1930" ニヨル公立図書館

数ハ次ノ如クデアル

私立図書館	一六七
公立図書館	一一五
私立図書館	二二五
公立図書館	一四五
私立図書館	五〇
公立図書館	二四
私立図書館	計 七八一

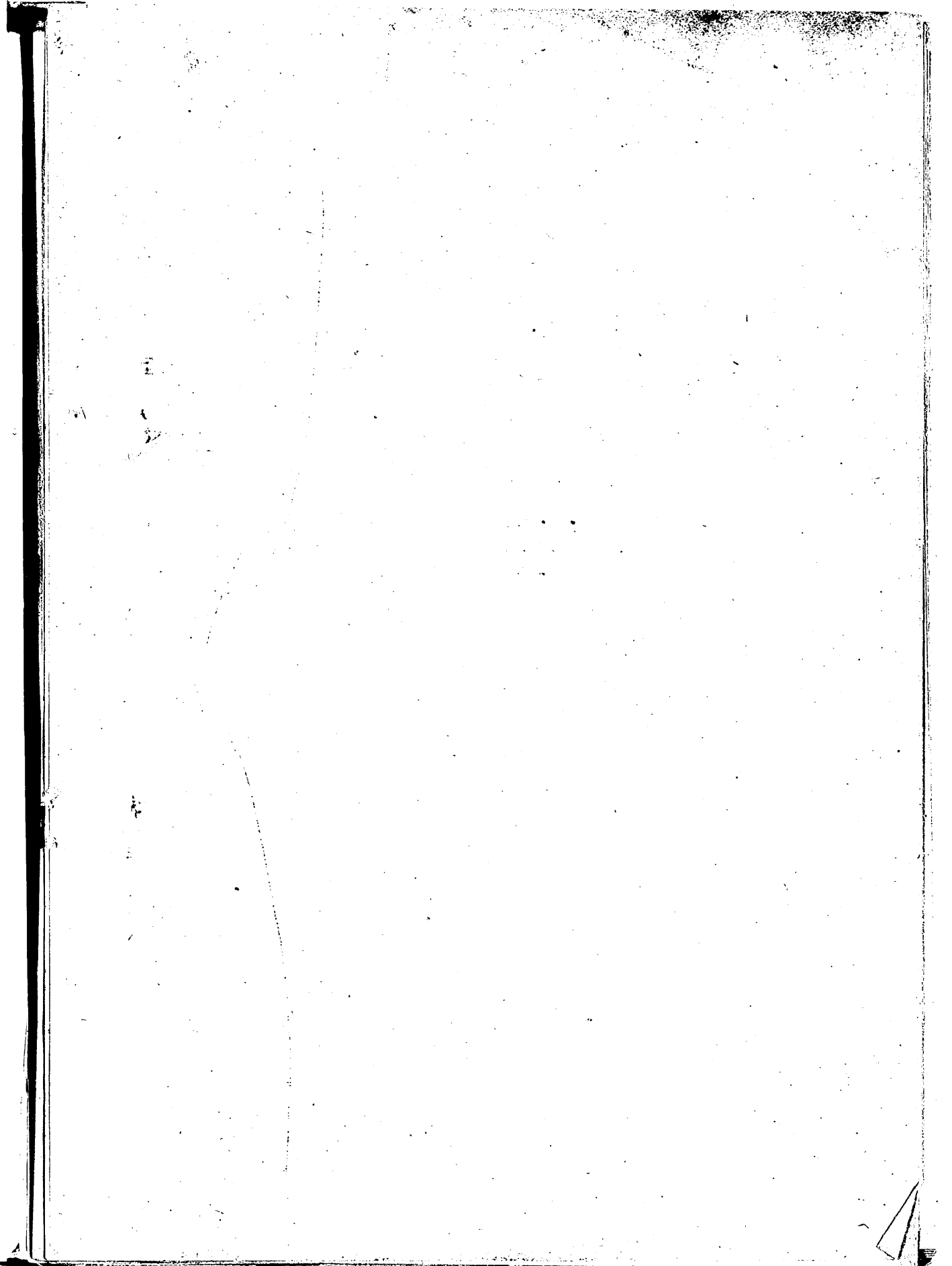
2、一合衆國ノ現教育制度 (昭和二十一年刊) ニヨル図書館数ハ次ノ如クデアル

公立図書館	一三〇〇〇
私立図書館	六五〇〇
私立図書館	一五〇〇
私立図書館	計 九三〇〇

表三(5) ソ聯事情統計(1939)

初進中	172,759	32,185,825
工場及 之ニ 中 (テクニカ)	1,535	242,236
労働者 (ファブrik)	322	11,645
高等教育機関	750	611,899

註 本統計ハ「ソヴェート聯邦事情」昭和十八年七月
 (参考) 1、初級中等学校ニヨル
 2、初級中等学校ニヨル
 3、初級中等学校ニヨル
 4、初級中等学校ニヨル
 5、初級中等学校ニヨル
 6、初級中等学校ニヨル
 7、初級中等学校ニヨル
 8、初級中等学校ニヨル
 9、初級中等学校ニヨル
 10、初級中等学校ニヨル
 11、初級中等学校ニヨル
 12、初級中等学校ニヨル
 13、初級中等学校ニヨル
 14、初級中等学校ニヨル
 15、初級中等学校ニヨル
 16、初級中等学校ニヨル
 17、初級中等学校ニヨル
 18、初級中等学校ニヨル
 19、初級中等学校ニヨル
 20、初級中等学校ニヨル
 21、初級中等学校ニヨル
 22、初級中等学校ニヨル
 23、初級中等学校ニヨル
 24、初級中等学校ニヨル
 25、初級中等学校ニヨル
 26、初級中等学校ニヨル
 27、初級中等学校ニヨル
 28、初級中等学校ニヨル
 29、初級中等学校ニヨル
 30、初級中等学校ニヨル
 31、初級中等学校ニヨル
 32、初級中等学校ニヨル
 33、初級中等学校ニヨル
 34、初級中等学校ニヨル
 35、初級中等学校ニヨル
 36、初級中等学校ニヨル
 37、初級中等学校ニヨル
 38、初級中等学校ニヨル
 39、初級中等学校ニヨル
 40、初級中等学校ニヨル
 41、初級中等学校ニヨル
 42、初級中等学校ニヨル
 43、初級中等学校ニヨル
 44、初級中等学校ニヨル
 45、初級中等学校ニヨル
 46、初級中等学校ニヨル
 47、初級中等学校ニヨル
 48、初級中等学校ニヨル
 49、初級中等学校ニヨル
 50、初級中等学校ニヨル
 51、初級中等学校ニヨル
 52、初級中等学校ニヨル
 53、初級中等学校ニヨル
 54、初級中等学校ニヨル
 55、初級中等学校ニヨル
 56、初級中等学校ニヨル
 57、初級中等学校ニヨル
 58、初級中等学校ニヨル
 59、初級中等学校ニヨル
 60、初級中等学校ニヨル
 61、初級中等学校ニヨル
 62、初級中等学校ニヨル
 63、初級中等学校ニヨル
 64、初級中等学校ニヨル
 65、初級中等学校ニヨル
 66、初級中等学校ニヨル
 67、初級中等学校ニヨル
 68、初級中等学校ニヨル
 69、初級中等学校ニヨル
 70、初級中等学校ニヨル
 71、初級中等学校ニヨル
 72、初級中等学校ニヨル
 73、初級中等学校ニヨル
 74、初級中等学校ニヨル
 75、初級中等学校ニヨル
 76、初級中等学校ニヨル
 77、初級中等学校ニヨル
 78、初級中等学校ニヨル
 79、初級中等学校ニヨル
 80、初級中等学校ニヨル
 81、初級中等学校ニヨル
 82、初級中等学校ニヨル
 83、初級中等学校ニヨル
 84、初級中等学校ニヨル
 85、初級中等学校ニヨル
 86、初級中等学校ニヨル
 87、初級中等学校ニヨル
 88、初級中等学校ニヨル
 89、初級中等学校ニヨル
 90、初級中等学校ニヨル
 91、初級中等学校ニヨル
 92、初級中等学校ニヨル
 93、初級中等学校ニヨル
 94、初級中等学校ニヨル
 95、初級中等学校ニヨル
 96、初級中等学校ニヨル
 97、初級中等学校ニヨル
 98、初級中等学校ニヨル
 99、初級中等学校ニヨル
 100、初級中等学校ニヨル



I-19